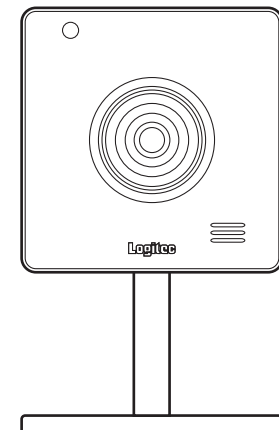
Network Camera

100万画素 3G対応ネットワークカメラ

LAN-NC1M3G/FX

ブラウザ版ユーティリティ
操作ガイド

このマニュアルは、別紙「セットアップガイド」とあわせてお読みください。

ご注意

●本製品の仕様および価格は、製品の改良等により予告なしに変更する場合があります。
●本製品に付随するドライバ、ソフトウェア等を逆アセンブル、逆コンパイルまたはその他リバースエンジニアリングすること、弊社に無断でホームページ、FTPサイトに登録するなどの行為を禁止させていただきます。
●このマニュアルの著作権は、ロジテック株式会社が所有しています。
●このマニュアルの内容の一部または全部を無断で複製/転載することを禁止させていただきます。
●このマニュアルの内容に関しては、製品の改良のため予告なしに変更する場合があります。
●このマニュアルの内容に関しては、万全を期しておりますが、万一ご不審な点がございましたら、弊社テクニカル・サポートまでご連絡ください。
●本製品の日本国外での使用は禁じられています。ご利用いただけません。日本国外での使用による結果について弊社は、一切の責任を負いません。また本製品について海外での（海外からの）保守、サポートは行っておりません。
●本製品を使用した結果によるお客様のデータの消失、破損など他への影響につきましては、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。重要なデータについてはあらかじめバックアップするようにお願いいたします。
●Microsoft、Windows Vista、Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。そのほか、このマニュアルに掲載されている商品名/社名などは、一般に各社の商標ならびに登録商標です。本文中における®およびTMは省略させていただきました。

100万画素 3G対応ネットワークカメラ

LAN-NC1M3G/FX

User's Manual
ユーザーズマニュアル

はじめに

この度は、ロジテックのネットワーク製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。このマニュアルにはネットワークカメラ“LAN-NC1M3G/FX”に装備されたブラウザ版ユーティリティを使用するにあたっての手順や設定方法が説明されています。
本製品の導入方法およびブラウザ版ユーティリティへのアクセス方法については、本製品に添付の「セットアップガイド」をお読みください。

このマニュアルは、製品の導入後も大切に保管しておいてください。

もくじ

1 はじめに

本製品のセットアップについて

ユーザーズマニュアルでは、本製品のブラウザ版ユーティリティ画面の機能について説明しています。本製品のセットアップ方法については、本製品に添付の「セットアップガイド」をお読みください。
セットアップガイドを紛失された場合は、ロジテック・ホームページよりダウンロードすることができます。

ブラウザ版 ユーティリティについて

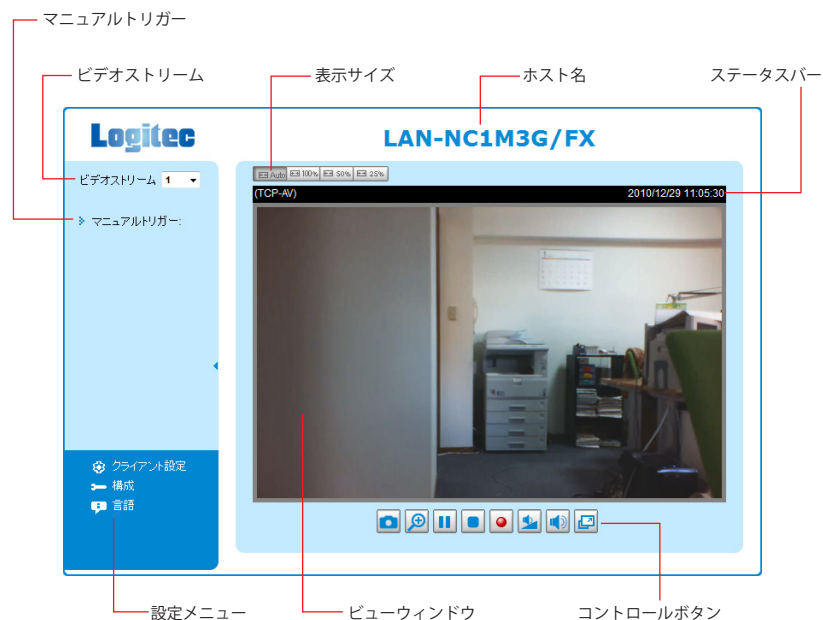
ブラウザ版ユーティリティには、本製品が撮影した映像の確認方法のほか、ネットワーク、セキュリティなどの各種設定、イベントの登録、イベント発生時の処理方法など、さまざまなことを設定する機能があります。この「ブラウザ版ユーティリティ　操作ガイド」をお読みになり、ご使用ください。

Windows版 録画ソフトウェアについて

本製品には、Windows版の録画ソフトウェアが付属しています。ブラウザ版ユーティリティよりもさらに細かな設定が可能になっています。必要に応じてご使用ください。操作方法については、「録画ソフトウェア 操作ガイド」をお読みください。

2 ホーム画面について

ホーム画面の内容

ホーム画面のおもな機能を説明します。

●ホスト名
本製品の名称です。この名称は自由に付けることができるため、ネットワーク上に複数のカメラがある場合など、区別するのに便利です。名称の変更方法については、P12「5. システム画面」をお読みください。初期値は「LAN-NC1M3G/FX」です。

●表示サイズ
モニターする映像のサイズを指定できます。100%が1280ドット×800ラインです。50%、25%の縮小サイズを選択できるほか、[AUTO]を選択するとブラウザの画面幅に合わせて表示することができます。

●ビデオストリーム
3種類の解像度とフレームレートを登録しておき、いずれか1つを選択して使用できます。初期値および登録方法は、P32「12. オーディオとビデオ画面」をお読みください。

●マニュアルトリガー
本製品では、あらかじめ用意されたイベントのトリガーのほかに、ユーザーがxmlファイルを使って作成したオリジナルのトリガーを3つまで登録することができます。 をクリックするとボタンが表示されます。トリガーを使用するか（On）、使用しないか（Off）を設定できます。

●設定メニュー

クライアント設定	クライアントに関する各種設定が可能です。P9「3. クライアント設定画面」をお読みください。
構成	本製品のさまざまなオプションを設定できます。P10「4. 構成メニューについて」をお読みください。
言語	項目名などの表示言語を日本語と英語から選択できます。

●ステータスバー
初期値では、プロトコルとメディア（映像・音声）の種類が表示されます（P9「3. クライアント設定画面」参照）。オプションの設定により、ビデオタイトルや日時などを表示することができます（P32「12. オーディオとビデオ画面」参照）。

●ビューウィンドウ
現在、カメラに映っている映像が表示されています。ビューウィンドウには、オプション設定により、ビデオタイトルや日時をオーバーレイすることもできます（P32「12. オーディオとビデオ画面」参照）。

●コントロールボタン

モニターしている映像をキャプチャしたり、録画再生することができます。ご使用のモードによって、表示されるボタンや有効になるボタンが異なります。ここでは初期値のH.246/MPEG-4モードでビデオ/オーディオ有効時のボタンを説明します。

	スナップショット	現在の映像を静止画としてキャプチャできます。このボタンをクリックすると、キャプチャされた静止画が表示されます。画像を保存する場合は、右クリックして[名前を付けて画像を保存]を選択します。
	デジタルズーム	このボタンをクリックすると設定画面が表示されます。初期値では、[デジタルズームを無効にする]がオンになっています。[デジタルズームを無効にする]をオフにすると、スライドバーを使って映像を最大400%まで拡大できます。
	ストリーミング 一時中止/開始/中止	ストリーミングの開始と一時停止、中止を選択できます。 … ストリーミングを一時停止します。 … ストリーミングを再開します。 … ストリーミングを中止します。
	録画の開始/停止	録画を開始または終了します。 … 録画を開始します。 … 録画を終了します。
	再生音量の調整	録画した映像を再生するときの音量を調整できます。ミュート機能を使用しているときは、使用できません。
	ミュート	モニター中のパソコンの音をミュートします。押すたびにミュート機能をオン/オフします。
	フルスクリーン	映像をフルスクリーンで表示します。キーボードの[ESC]ボタンを押すと、元の状態に戻ります。

3 クライアント設定画面

クライアントに関する各種設定をします。

画面の表示方法　[ホーム]➡[クライアント設定]

設定を変更した場合

すべての設定が終わったあとで、必ず 保存 をクリックして設定を保存してください。

H.246/MPEG-4 メディアオプション	モニターするメディア(映像と音声、映像、音声)を選択します。[オーディオのみ(音声)]を選択した場合、ホーム画面のビューウィンドウに「オーディオのみ」と表示されます。初期値：ビデオ/オーディオ
H.246/MPEG-4 プロトコルオプション	ネットワークで使用するプロトコルを選択できます。 初期値：TCP
保存オプション	静止画キャプチャ/録画/録音時のファイルの保存フォルダを指定します(初期値：c:\Record)。また、ファイル名に付ける接頭辞を設定します(初期値：CLIP)。 [ファイル名の最後に日付と時間を追加します]をオンにすると、ファイル名に日時(年月日-時分秒)が付加されます(初期値：オン)。 初期値での例：CLIP_20110131-180853
ローカル・ストリーム 再生バッファ時間	バッファ時間を設定することで、ローカルネットワークでの映像モニター時に、安定したストリーミングが可能になります。単位は「ミリ秒」です。「3000ミリ秒」に設定すると、バッファ時間が「3秒」になります。 初期値=0

4 構成メニューについて

本製品の機能のさまざまなオプションを設定するためのメニューです。初期値では基本的な機能のオプションを設定する「ベーシック・モード」のメニュー項目が表示されます。より高度な機能のオプションを設定する場合は、メニューの[アドバンス・モード]をクリックしてください。各メニュー画面の詳細については、該当するページをお読みください。

画面の表示方法　[ホーム] ➡ [構成] ➡ [ベーシック・モード]
　　　　　　　　　　　　　　　　➡ [アドバンス・モード]

システム	本製品のシステムに関する設定をします。	→P12
セキュリティ	本製品のセキュリティ機能を設定します。管理者のパスワードと、本製品を使用するユーザーを設定することで、不特定の人が本製品からの映像をモニターすることを防止します。	→P14
HTTPS	HTTPプロトコルにSSLによる暗号化機能を追加したHTTPSプロトコルを使用する場合の設定画面です。	→P16
SNMP	ネットワーク上にあるネットワーク機器の管理を容易にするSNMPプロトコルの設定画面です。本製品の設定の前に管理に必要な準備を完了しておいてください。	→P18

ネットワーク	本製品をネットワークに接続するための設定画面です。	→P19
DDNS	本製品にインターネット経由で接続する場合に必要になるDDNSサービスの設定画面です。	→P25
アクセスリスト	本製品にアクセスしているクライアントを表示したり、アクセスを制限するための設定画面です。	→P29
オーディオとビデオ	本製品の映像および音声に関する設定画面です。	→P32
モーション検出	指定したエリアの映像に変化があった場合にアラートを出す「モーション検出」の設定画面です。	→P42
カメラタンパー検出	本製品に対する妨害を検出する機能を設定します。	→P45
ホームページのレイアウト	本ユーティリティのレイアウトおよびデザインをカスタマイズすることができます。	→P46
適用	イベントを設定します。モーション検出などのトリガー発生時に、本製品で撮影した映像や静止を、指定したサーバーへ送信することができます。	→P48
録画	映像の録画に関する設定をします。	→P56
システムログ	システムログファイルをバックアップ用にリモートサーバーに送信したり、現在のシステムログを閲覧することができます。	→P59
パラメータを表示	パラメータリストには、システム全体のパラメータが表示されます。	→P61
メンテナンス	本製品を工場出荷時の設定に戻したり、ファームウェアを更新したりできます。	→P62

5 システム画面

本製品のシステムについて設定します。

画面の表示方法　［ホーム］➡［構成］➡［システム］

設定を変更した場合
すべての設定が終わったあとで、必ず 保存 をクリックして設定を保存してください。

■システム

ホスト名	本製品の名称を付けることができます。ここで設定した名称はホーム画面に表示されます（→P6）。 初期値＝LAN-NC1M3G/FX
LEDインジケーターをオフにする	本体に装備されたLEDランプの点灯/点滅をオフにすることができます。本製品が動作中であることを他人に知られたくない場合などに使用します。初期値＝オン

■システム時間

本製品の日付と時間合わせについて、どこを基準に設定するかを選択します。

タイムゾーン ［アドバンス・モード選択時］	ご使用になる地域にタイムゾーンを合わせます。通常は変更する必要はありません。 初期値＝GMT+09:00大阪、札幌、東京、ソウル、ヤクーツク
現在の日付と時刻を保存 （初期値）	現在設定されている日付と時刻を基準にします。
コンピュータ時間と同期	本ユーティリティを開いているパソコンの日時と同期させます。この項目を選択すると、コンピュータの日付と時間が表示されます。
マニュアル	手動で日付と時間を設定します。この項目を選択すると、入力画面が表示されます。
自動	NTPサーバーより日付と時刻を受信します。［NTPサーバー］にサーバーのアドレスを入力します。［アップデータの間隔］で更新間隔を選択します。初期値＝1時間

6 セキュリティ画面

ネットワーク上に映像・音声を配信しますので、セキュリティ機能を設定しないとネットワークにアクセス可能なすべての人が映像をモニターすることができます。ユーザー設定をすることで、限られた人だけが映像をモニターしたり、本ユーティリティにアクセスして設定を変更することができます。安全のために必ずセキュリティ設定をしてください。基本的な設定の手順については、本製品に添付の「セットアップガイド」のP2「本製品の基本設定」で詳しく説明しています。

画面の表示方法　[ホーム] ➡ [構成] ➡ [セキュリティ]

設定を変更した場合
すべての設定が終わったあとで、必ず 保存 をクリックして設定を保存してください。

●ルートパスワード
本製品の管理者である「root」ユーザーのパスワードです。「root」ユーザーはすべての設定を変更できる権限を持ちます。管理者名（ユーザーID）の「root」は、変更できません。［ユーザーの管理］で他のユーザーを登録する場合は、必ず先に「root」ユーザーのパスワードを設定してください。

本ユーティリティにアクセスする場合
本ユーティリティに接続したときに表示されるパスワード画面では、［ユーザー名］には「root」、［パスワード］には、ここで設定したルートパスワードを入力します。

●ユーザーの管理
ユーザーを作成すると、パスワードを知っている人だけが本製品の映像を見ることができるようにモニターを制限できます。ユーザーは20人まで登録できます。ユーザーの権限は［特権］で選択できます。

◆［特権］の種類

管理者	すべての設定を変更できます。
オペレータ	映像のモニターのほか映像の録画などの操作ができます。
ビューワ	映像のモニターしかできないユーザーです。

7 HTTPS　アドバンス・モード選択時

HTTPプロトコルにSSLによる暗号化機能を追加したHTTPSプロトコルを使用する場合の設定画面です。

画面の表示方法　［ホーム］➡［構成］➡［HTTPS］

■操作手順

❶［証明方法を作成およびインストールする。］で、証明書の発行方法を選択します。

自動作成の場合	［HTTPS安全接続を有効にする］をオンにし、使用するプロトコル（HTTP&HTTPS、HTTPSのみ）を選択します。 ❷へ進みます。
手動作成の場合	［作成］をクリックします。〈証明書〉画面に必要な情報を入力します。 ❷へ進みます。
発行を要求する場合	［作成］をクリックします。〈証明書〉画面に必要な情報を入力します。 ❷へ進みます。

❷［保存］をクリックします。

- 証明書が作成され、［証明書情報］表示されます。
- ［プロパティ］をクリックすると詳細な情報が表示されます。
- 「発行を要求する場合」では、ポップアップブロックが表示された場合は許可します。［証明書要請］が表示されますので、証明書の発行を依頼します。証明書が発行されたら、［証明書ファイルの選択］で証明書をインストールします。

❸ホーム画面に戻ると、HTTPSプロトコルで接続できるようなります。セキュリティに関する画面が表示された場合は、メッセージに従って［OK］または［YES］を選択してください。

8 SNMP　アドバンス・モード選択時

ネットワーク上にあるネットワーク機器の管理を容易にするSNMPプロトコルの設定画面です。本製品の設定の前に管理に必要な準備を完了しておいてください。

画面の表示方法 アドバンス・モード選択時　［ホーム］➡［構成］➡［SNMP］

設定を変更した場合
すべての設定が終わったあとで、必ず［保存］をクリックして設定を保存してください。

●有効 SNMPv1, SNMPv2c

この項目を有効にすると、コミュニティ名を入力する項目が表示されます。読み書き可能コミュニティと読み取り専用コミュニティの各名称を入力します。

有効 SNMPv1, SNMPv2c
SNMPv1, SNMPv2c 設定
読み書き可能コミュニティ: Private
読み取り専用コミュニティ: Public

●有効 SNMPv3

読み書き可能コミュニティと読み取り専用コミュニティの各名称のほか、認証タイプ、認証パスワード（8文字以上）、暗号化パスワード（8文字以上）を入力します。

9 ネットワーク画面

本製品をどのようにしてネットワークに接続するかを設定します。

画面の表示方法　［ホーム］➡［構成］➡［ネットワーク］

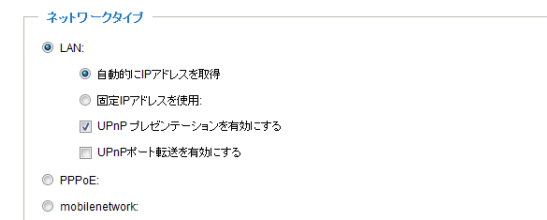
設定を変更した場合
すべての設定が終わったあとで、必ず［保存］をクリックして設定を保存してください。

ベーシック・モードの項目

■ネットワークタイプ　初期値＝LAN

接続するネットワークの種類にあわせて必要な設定をします。

●LAN

本製品を有線LANに接続します。ローカルネットワーク内での映像・音声のモニターやルータを経由してインターネットに接続する場合に選択します。

自動的にIPアドレスを取得（初期値）	本製品のローカルIPアドレスをルータなどのDHCPサーバー機能を使って自動取得する場合に選択します。
固定IPアドレスを使用	本製品のローカルIPアドレスを手動で設定する場合に選択します。この項目を選択すると、IPアドレス等を手動で入力する項目が表示されます。各アドレスを入力してください。
UPnPプレゼンテーションを有効にする	この項目をオンにすると、UPnP機能をサポートしたOSを搭載したパソコンで、ネットワーク（マイネットワーク）を表示した場合に、自動的に本製品をリストに表示することができます。 初期値＝オン
UPnPポート転送を有効にする	本製品をルータ経由でインターネットに接続する場合、ルータのUPnP機能とこの項目をオンにしておくと、インターネット経由でのモニターに必要になるポートを自動的に開放します。 初期値＝オフ

●PPPoE

ルータを経由せず、本製品をPPPoE接続でインターネットに接続する場合に選択します。プロバイダから提供されたユーザー名（ユーザーID等）とパスワードを入力してください。

●PPPoE接続する場合

PPPoE接続では、プロバイダ（インターネット接続事業者）から提供されるユーザー名（※）とパスワードを入力する必要があります。
ユーザー名とパスワードは、プロバイダからの送付された書類に記載されていますので、ご確認ください。
※「ユーザー名」の名称は、ユーザーID等、プロバイダによって呼び名が異なりますが、すべて同じです。

●PPPoE接続のユーザー名に「@」が含まれる場合

[ユーザー名]の入力において、プロバイダから提供された[ユーザー名]の後ろに、必ず「@」とご契約先の「プロバイダ識別子」を入力してください。

（例）userid123@logitec.net
　　ユーザー名　　プロバイダ識別子
※プロバイダ識別子は、プロバイダから送付された資料をご覧ください。

●Mobile network

本製品をUSB対応の3Gモデムで使用する場合に選択します。ご利用になるサービス事業者から提供された情報をご用意のうえ、必要な項目を入力してください。
3Gモデムを利用した設定手順については、本製品の添付の「セットアップガイド」に詳しい説明があります。

●イーモバイルの3Gデータモデムをご使用の場合

各項目の初期値は、イーモバイルの3Gデータモデム用にあらかじめ設定されています。イーモバイルの3Gデータモデムをご使用の場合は、項目を設定する必要はありません。そのまま［保存］をクリックしてください。

●docomoをご使用の場合

契約の内容を確認し、必要な情報を入力してください。

●有効IPv6（この項目はアドバンス・モードでのみ表示されます）

ご使用のネットワーク環境やハードウェアがIPv6に対応している場合、この項目をオンにすると、IPv6が使用可能になります。IPv6の対応ブラウザは、Microsoft® Internet Explorer 6.5/Mozilla Firefox3.0以上です。

［IPv6情報］をクリックすると、IPv6情報が表示されます。正常に情報を取得できれば以下の例のような構成になります。

```
[eth0 address]
2001:0c08:2500:0002;0202:d1ff:fe04:65f4/64@Global
Fe80:0000:0000:0000:0202:dlff:fe04:65f4/64@Local
[Gateway]
fe80::211:d8ff:fea2:1a2b
[DNS]
2010:05c0:978d::
```

●IPアドレスの手動セットアップ

IPv6のIPアドレス等を自動で取得できなかった場合は、手動で設定することができます。

アドバンス・モードの項目

アドバンス・モードを選択した状態で、〈ネットワーク〉画面を表示すると、高度なネットワーク設定が可能です。これらの機能はネットワークに十分な知識を持った管理者などが設定してください。

設定を変更した場合

すべての設定が終わったあとで、必ず［保存］をクリックして設定を保存してください。

■有効IPv6

アドバンス・モードの選択時に、［ネットワークタイプ］に表示される項目です。詳細については、P21「有効IPv6」を参照してください。

■IEEE802.1x

この項目をオンにすると、信頼性の高いIEEE802.1x認証の使用が可能になります。設定項目が表示されますので、必要な設定をおこないます。

■CoS

この項目をオンにすると、「CoS（Class of Service）」が有効になります。設定項目が表示されますので、必要な設定をおこないます。［VLAN ID］にID（1〜4095）を設定し、アプリケーションごとの優先順位（1〜7）を設定します。

■QoS/DSCP

この項目をオンにすると、「QoS/DSCP」が有効になります。設定項目が表示されますので、必要な設定をおこないます。アプリケーションごとのDSCPを10進数（0〜63）で設定します。

■HTTP

HTTPにおける設定項目です。

項目	説明
認証	一般的な［basic認証］のほか、信頼度の高い［digest認証］を選択できます。初期値＝basic
HTTPポート / セカンダリHTTPポート	HTTPで使用するポート番号を設定します。 初期値＝80/8080
ストリームのアクセス名	本製品でストリームのソースを区別するためのファイル名を設定します。 初期値＝video.mjpg/ video2.mjpg/ video3.mjpg

■HTTPS

HTTPSで使用するポート番号を設定できます（1025～65535）。初期値＝443

■FTP

FTPで使用するポート番号を設定できます（1025～65535）。初期値＝21

■RTSPストリーミング

RTSP（Real Time Streaming Protocol）の設定が可能です。この機能を設定する前に、本製品にパスワードを設定してください（P14「6. セキュリティ画面」参照）。

RTSPストリーミング

認証:	disable
ストリーム1のアクセス名:	live.sdp
ストリーム2のアクセス名:	live2.sdp
ストリーム3のアクセス名:	live3.sdp
RTSPポート:	554
ビデオのRTPポート:	5556
ビデオのRTCPポート:	5557
オーディオのRTPポート:	5558
オーディオのRTCPポート:	5559

ストリーム1のマルチキャスト設定:
ストリーム2のマルチキャスト設定:
ストリーム3のマルチキャスト設定:

項目	説明
認証	［disable］、［basic］、［digest］から選択できます。［digest］を選択すると暗号化により、不正アクセスの防止に有効です。初期値＝disable
ストリームの アクセス名	本製品でストリームのソースを区別するためのファイル名を設定します。本製品にアクセスするためにRTSPプレーヤーを使用する場合、ビデオモードをH.264/MPEG -4に設定します。ストリーミングデータの送信を要求するには、次のRTSP URLコマンドを使用する必要があります。 rtsp://IPアドレス:RTSPポート番号/アクセス名 初期値＝live.sdp/ live2.sdp/ live3.sdp
RTSPポート～ オーディオの RTCPポート	それぞれで使用するポートを設定します（1025～65535）。RTPポートは必ず偶数に設定してください。RTCPポートには、RTPポート番号プラス1の番号が自動的に割り当てられます。 初期値＝554/5556/5557/5558/5559
ストリームの マルチキャスト設定	ストリームのソースごとにマルチキャスト設定が可能です。 をクリックすると設定項目が表示されます。

10 DDNS画面

本製品の映像・音声をインターネット経由または3Gモデム経由でモニターする場合、DDNSサービスへの登録が必要です。DDNSの登録および設定手順については、本製品の添付の「セットアップガイド」に詳しい説明があります。

画面の表示方法　［ホーム］➡［構成］➡［DDNS］

設定を変更した場合

すべての設定が終わったあとで、必ず 保存 をクリックして設定を保存してください。

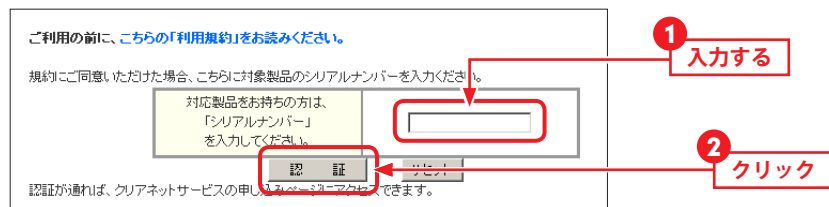
DDNSサービスへの登録（クリアネットへの登録）

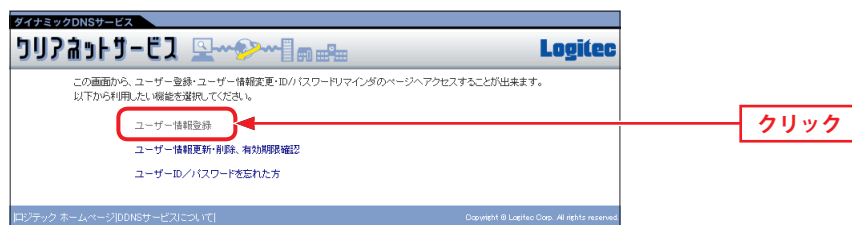
インターネット経由で本製品の映像（音声を含む）を見るには、固定のグローバルIPアドレスをご利用になるか、ダイナミックDNSの登録が必要です。ここではダイナミックDNSサービス「クリアネット」を利用する方法を説明します。
「クリアネット」は、弊社のダイナミックDNSサービスです。弊社の該当製品を使用している場合、2012年5月31日までは無料で利用できます。

1　インターネットに接続できるパソコンで、Webブラウザを使って弊社の「クリアネット」サービスのページを表示します。

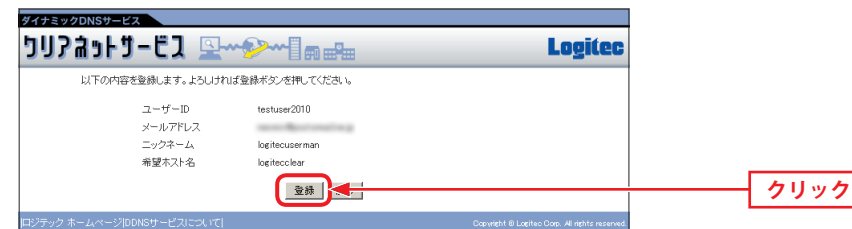
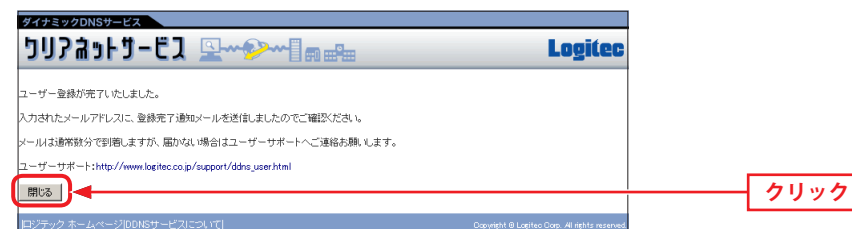
アドレス　http://www.logitec.co.jp/products/ddns.html

2　［ご利用の手順］にある「利用規約」をお読みになり、内容を確認します。

3 本製品のシリアルナンバーを入力し、[認証]をクリックします。

• シリアルナンバーは本製品の裏面に記載しています。

4 [ユーザー情報登録]をクリックします。

5 必要事項を入力し、[内容確認]をクリックします。

ユーザーID	お好きな名称のユーザーIDを入力します。半角英数字20文字以内です。
パスワード	半角英数字4～8文字の任意のパスワードを入力します。
パスワード(確認用)	もう一度、パスワードを入力します。
メールアドレス	連絡先のメールアドレスを入力します。
ニックネーム	識別用の名称を入力します。お好きな名称を設定できます。全角30文字(半角60文字)以内です。
希望ホスト名	お好みのホスト名称を設定します。「xxxx.clear-net.jp」のxxxxにあたる部分の名称です。半角英数字20文字以内です。

6 内容が正しければ、[登録]をクリックします。

7 登録完了メールのお知らせが表示されます。[閉じる]をクリックします。

8 しばらくすると、登録完了メールが届きます。メールの内容のうち、以下の内容をメモしておきます。

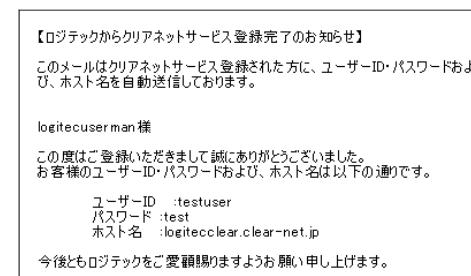
【ロジテックからクリアネットサービス登録完了のお知らせ】

このメールはクリアネットサービス登録された方に、ユーザーID･パスワードおよび、ホスト名を自動送信しております。

logitecuserman様

この度はご登録いただきまして誠にありがとうございました。
お客様のユーザーID･パスワードおよび、ホスト名は以下の通りです。

ユーザーID :testuser
パスワード :test
ホスト名 :logitecclear.clear-net.jp

今後ともロジテックをご愛顧賜りますようお願い申し上げます。

メール例

ニックネーム	
ユーザーID	

パスワード	
ホスト名	

DDNS設定

登録したDDNSサービスの情報を入力します。DDNSの設定手順については、本製品の添付の「セットアップガイド」に詳しい説明があります。

DDNSを有効にする	この項目をオンにすると、DDNSサービスを使用できます。
プロバイダ	使用するDDNSサービスのプロバイダ名をリストから選択します。
ホスト名/ユーザー名/パスワード	プロバイダから提供された情報を入力します。登録したプロバイダにより、名称が異なります。 クリアネットでご登録の場合、必ず「(ホスト名).clear.net.jp」としてください。

設定を変更した場合
すべての設定が終わったあとで、必ず［保存］をクリックして設定を保存してください。

11 アクセスリスト画面　アドバンス・モード選択時

本製品にアクセスしているクライアントを監視したり、クライアントのフィルタリング等の設定ができます。

画面の表示方法 アドバンス・モード選択時　［ホーム］➡［構成］➡［アクセスリスト］

設定を変更した場合
すべての設定が終わったあとで、必ず［保存］をクリックして設定を保存してください。

■一般設定

同時ストリーム接続の最大制限数量	同時にストリーム接続できるクライアントの最大数を設定します(1〜10)。［情報を閲覧する］をクリックすると、本製品にアクセス中のクライアントのリストが表示されます。
アクセスリストのフィルタリングを有効にする	この項目をオンにすると、〈接続状態〉画面のフィルタリング機能を有効にします。

●〈接続状態〉画面

チェックボックス	受信拒否リストに追加する または 切断する ボタンを使用する場合に、対象となるクライアントをオンにします。
IPアドレス	現在、本製品に接続しているクライアントのローカルIPアドレスです。
継続時間	クライアントがアクセスしてから現在までの経過時間を表示しています。
ユーザーID	アクセス中のクライアントが使用しているユーザーIDを表示します。セキュリティ設定（→P14）の［特権の管理］で［匿名者の閲覧を許可する］をオンにしている場合、ユーザーIDは表示されません。
［リフレッシュ］	〈接続状態〉画面を更新します。
［受信拒否リストに追加する］	一覧のチェックボックスをオンにしたクライアントを受信拒否リストに追加します。
［切断する］	一覧のチェックボックスをオンにしたクライアントから本製品へのアクセスを切断します。

■フィルタタイプ

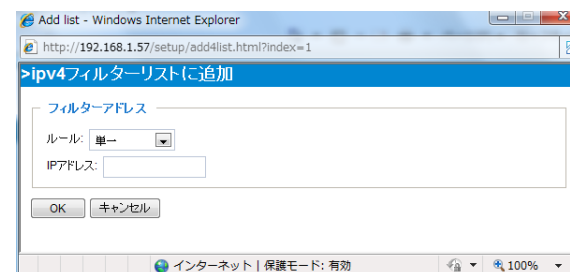
［フィルタ］の［アクセスリスト］に登録されたクライアントから映像のモニターを拒否するのか許可するのかを選択します。［許可］に設定すると、アクセスリストに登録されたIPアドレスを持つクライアントだけがアクセスを許可されます。［拒否］に設定すると、リストに登録されたIPアドレスを持つクライアントだけがアクセスを拒否されます。

フィルタタイプ
許可　拒否

■フィルタ

［情報を閲覧する］で表示されるリストで選択されたクライアントと 追加 をクリックして登録したクライアントが一覧で表示されます。

●クライアントの追加方法

追加 をクリックすると、追加画面が表示されます。ルールを選択し、追加したいクライアントのIPアドレスを入力します。入力が終われば OK をクリックします。

ルール

単一	1クライアント単位でIPアドレスを持つクライアントの接続を許可または拒否します。 （例）192.168.3.101
ネットワーク	ネットワークアドレスとサブネットマスクを指定します。 （例）192.168.3.0/24の場合 192.168.3.xのIPアドレスを持つクライアントの接続を許可または拒否します。
範囲	指定した範囲のIPアドレスを持つクライアントの接続を許可または拒否します。 （例）192.168.3.100 ― 192.168.3.200

■管理者IPアドレス

ここに登録したIPアドレスは、フィルタの設定に関係なく常にアクセスが許可されます。

12 オーディオとビデオ画面

本製品の映像・音声についての設定をします。

画面の表示方法　［ホーム］➡［構成］➡［オーディオとビデオ］

ベーシック・モードの項目

設定を変更した場合
すべての設定が終わったあとで、必ず 保存 をクリックして設定を保存してください。

■ビデオの設定

項目	説明
ビデオタイトル	ここで入力した名称は、ホーム画面のビューウィンドウのステータスバーに表示されます。ビデオタイトルを映像にオーバーレイする場合は、1バイト文字だけを使用してください。2バイト（全角）文字は使用できません。 初期値＝空白
カラー	映像をカラーで表示するか、白黒で表示するかを選択します。白黒を選択すると、データの転送量を減らしたり、録画のファイルサイズを小さくすることができます。初期値＝カラー
電力線周波数	蛍光灯のちらつき（フリッカー）が気になる場合に、本製品を設置した地域の電力線周波数に変更します。一般的に東日本が50Hz、西日本が60Hzです。設定を変更した場合は、設定を保存後、いったんACアダプタを抜いて、電源を入れ直してください。 初期値＝60Hz
ビデオの位置	［反転］を選択すると上下が反転します。［ミラー］を選択すると左右が反転します。カメラを天井などに上下反対に取り付けた場合は、［反転］と［ミラー］の両方を選択します。
ビデオにタイトルとスタンプをオーバーレイ	この項目を選択すると、映像にビデオタイトルと日時をオーバーレイすることができます。 初期値＝オフ

■オーディオ設定

項目	説明
ミュート	音声をモニターしません。録画時も音声は記録されません。 初期値＝オフ
オーディオタイプ	音声データを保存するときに使用するオーディオフォーマットを設定します。AAC、GSM-AMR、G.711の3種類から選択できます。AACとGSM-AMRについては、ビットレートを設定できます。G.711は、pcmuとpcmaの2つのモードを選択できます。初期値＝pcmu

アドバンス・モードの項目

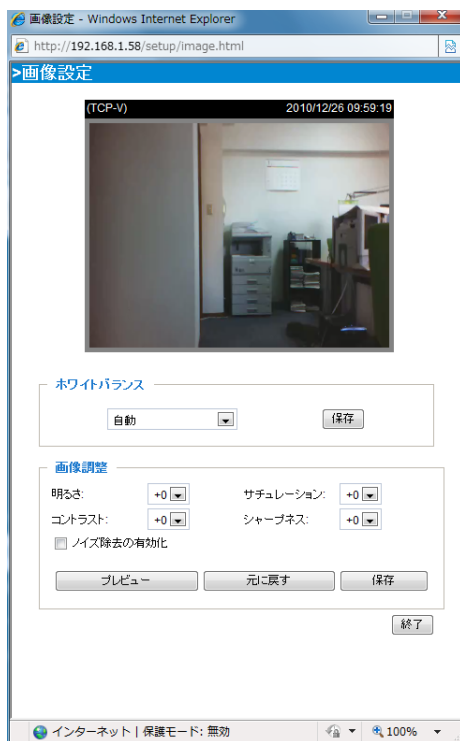
アドバンス・モードでは、ベーシック・モードの項目に加え、より詳細な設定ができます。

設定を変更した場合
すべての設定が終わったあとで、必ず［保存］をクリックして設定を保存してください。

［画像設定］ボタン

映像に関する設定です。実際に映像を撮影する場所にカメラを設置後、周辺環境にあわせて適切な設定をしてください。

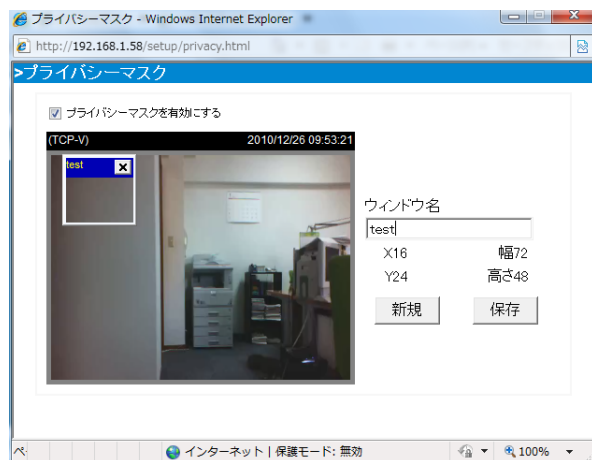
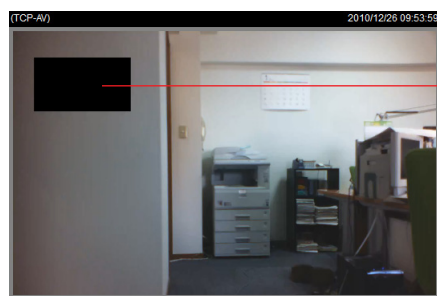
●ホワイトバランス
白色の基準を決めるホワイトバランスを設定します。［自動］を選択すると、周辺の状況の変化にあわせて自動的にホワイトバランスを調整します。［現在の値を維持する］を選択すると、周辺の状況の変化に関係なく現状のホワイトバランスを基準とします（このあとの「［現在の値を維持する］の設定方法」参照）。
変更した場合は、［保存］をクリックします。初期値＝自動

［現在の値を維持する］の設定方法
はじめに［ホワイトバランス］を［自動］に設定しておきます。本製品のレンズの前に白い紙を置くと、ホワイトバランスが自動設定されます。この状態で、［ホワイトバランス］を［現在の値を維持する］に変更してください。

●画像調整
明るさ、コントラスト、サチュレーション（彩度）、シャープネスのレベルを調整できます。
初期値＝すべて［+0］
［ノイズ除去の有効化］をオンにすると、除去するノイズの種類と度合いを選択できます。

ボタン	説明
［プレビュー］ボタン	調整した設定を保存する前に、映像を確認できます。
［元に戻す］ボタン	各項目を前回保存したときの状態に戻します。保存後に、保存前の状態に戻すことはできません。
［保存］ボタン	調整した設定を保存します。

●［終了］ボタン
画面を閉じます。

［プライバシーマスク］ボタン

本製品の映像の中で、プライバシーに関わる情報など見せたくない部分をマスクすることができます。最大5個のマスクを設定できます。

❶ 新規 をクリックします。マスクの範囲を決めるウィンドウが開きます。
❷［ウィンドウ名］を入力します。
❸ マウスを使ってウィンドウの位置と大きさを決めます。
・ ドラッグで移動、コーナーにカーソルを合わせることで大きさを調整できます。
❹ 保存 をクリックします。保存終了を知らせる画面が表示されますので、OK をクリックします。設定画面を閉じます。
❺［プライバシーマスクを有効にする］をオンにします。
❻ ホーム画面で映像を確認すると、指定した場所がマスクされた状態で表示されます。

マスクされた状態

プライバシーマスクの削除方法
削除したいマスクの ☒ をクリックし、マスクウィンドウを閉じます。保存 をクリックします。

［センサー設定］ボタン

本製品のCMOSセンサーの設定をします。

■露出

●最高の露光時間
本製品のシャッタースピードを設定します。シャッタースピードが速いほどブレの少ない映像を撮影できますが、十分な光量が必要になります。
初期値＝1/30s

●露光レベル
露出レベルを8段階で調整できます。明るい場所では数値を小さく、暗い場所では数値を大きくします。
初期値＝4

●最大ゲイン
感度を2X、4X、8X、16Xから選択できます。数値が大きいほどゲイン率が高くなります。暗い場所を撮影する場合に感度を上げると映像がよく見えるようになります。ただし、映像は粗くなります。初期値＝4X

●BLCを有効にする
逆光時の黒つぶれを補正する機能を有効にします。初期値＝オフ

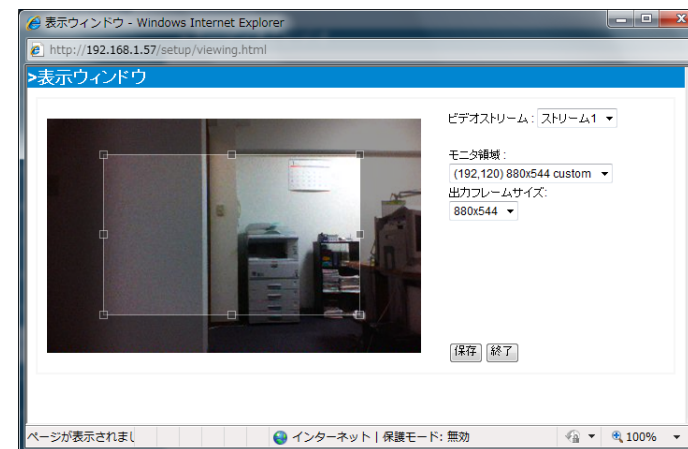
プレビュー ボタン	調整した設定を保存する前に、映像を確認できます。
元に戻す ボタン	各項目を前回保存したときの状態に戻します。保存後に、保存前の状態に戻すことはできません。
保存 ボタン	調整した設定を保存します。
終了 ボタン	〈センサー設定〉画面を閉じます。

■プロファイルについて

通常のセンサー設定とは別に、特定の時間帯だけに使用するセンサー設定を作成することができます。

❶ プロファイル をクリックします。
❷ [本プロファイルを有効化]をオンにします。
❸ [送信元]に開始時間を、[送信先]に終了時間を入力します。
単位は「時：分」です。
❹ [露出]を設定し、保存 をクリックします。
❺ 終了 をクリックします。

[表示ウィンドウ]ボタン

本製品が撮影する映像から必要な領域だけをモニターすることができます。また、ご使用のディスプレイのに合わせて、ホーム画面のビューウィンドウのサイズを設定することができます。

❶ [ビデオストリーム]で、対象となるストリームを選択します。
❷ [モニタ領域]で、モニターする領域のサイズを選択します。
・ 画面に枠が表示されます。
・ マウスをドラッグし、モニターしたい範囲に枠を移動します。また、ポイントにマウスのカーソルを合わせることで、枠(表示領域)をカスタマイズすることもできます。
❸ [出力フレームサイズ]で、ビューウィンドウのサイズを選択します。
❹ 保存 をクリックします。
❺ 終了 をクリックします。
❻ ホーム画面で映像を確認すると、指定した範囲の映像が、指定したサイズのウィンドウに表示されます。

ビデオストリームの品質設定

ストリーム1～3について、映像品質の設定ができます。映像フォーマットを選択すると、対応するオプションの設定項目が表示されます。

ストリーム1のビデオ品質設定:
ストリーム2のビデオ品質設定:
MPEG-4:
フレームサイズ: 640x400
最大フレームレート: 30 fps
イントラフレーム期間: 1 S
ビデオ品質:
固定ビットレート: カスタマイズする
1024 Kbps [4~8000]
品質調整: 好
H.264:
JPEG:
ストリーム3のビデオ品質設定:
MPEG-4:
H.264:
JPEG:
フレームサイズ: 176x144
最大フレームレート: 5 fps
ビデオ品質: 好

●H.264およびMPEG-4

Internet Explorerで表示する場合に選択できます。その他のブラウザで表示する場合は、［JPEG（MJPG）］を選択してください。

フレームサイズ	フレームサイズを選択します。モバイルなどデータ転送量が少ない環境では、フレームサイズを小さくすることをお勧めします。 初期値＝640×400
最大フレームレート	最大のフレームレートを選択します。モバイルなどデータ転送量が少ない環境では、フレームレートを小さくすることをお勧めします。 初期値＝30ftp
イントラフレーム期間	イントラフレームの周期を選択します。 初期値＝1S
ビデオ品質	固定ビットレート：映像の変化に関係なく、選択したビットレートで映像を配信します。映像の動きが激しいとコマ落ちやブロックノイズが発生したります。16段階のビットレートから選べるほか、1Kbps～8000Kbpsの範囲で自由にカスタマイズすることもできます。 初期値＝1024Kbps 品質調整：映像を一定の品質で配信します。映像の動きに合わせてビットレートが変化します。5段階の品質が選べるほか、スライダーでカスタマイズもできます。　初期値＝好

●JPEG

Internet Explorer以外のブラウザで表示する場合は、［JPEG（MJPG）］を選択してください。MacおよびiPhoneの場合に必要です。

フレームサイズ	フレームサイズを選択します。モバイルなどデータ転送量が少ない環境では、フレームサイズを小さくすることをお勧めします。 初期値＝640×400
最大フレームレート	最大のフレームレートを選択します。モバイルなどデータ転送量が少ない環境では、フレームレートを小さくすることをお勧めします。 初期値＝30ftp
ビデオ品質	映像を一定の品質で配信します。映像の動きに合わせてビットレートが変化します。5段階の品質が選べるほか、スライダーでカスタマイズもできます。　初期値＝好

13 モーション検出画面

あらかじめ指定した領域の映像に一定量の変化があった場合、その動きを検知し、指定したサーバーなどへ通知することができます。最大3つの領域を設定できます。また、特定の時間帯だけ、別の領域をモーション検知の対象にすることができます(プロファイル)。

画面の表示方法　[ホーム]➡[構成]➡[モーション検出]

設定を変更した場合
すべての設定が終わったあとで、必ず 保存 をクリックして設定を保存してください。

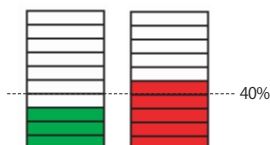
■設定の手順

❶ 新規 をクリックします。新しいモーション検出ウィンドウが表示されます。
❷ [ウィンドウ名]にウィンドウの名称を入力します。
・ ウィンドウを移動またはサイズ変更するには、ウィンドウをドラッグ＆ドロップします。
・ ウィンドウを削除するには、ウィンドウの右上角にある ✕ をクリックします。
❸ [感度]と[割合]を設定します。感度と割合については、次ページの表を参照してください。
❹ 保存 をクリックします。設定が保存されます。
❺ [モーション検出を有効にする]をオンにします。モーション検出機能が有効になります。

アラームの通知先を設定するには
P48「16. 適用画面」をお読みください。〈適用〉画面でイベントを作成します。[トリガー]で[ビデオ動き検出]を選択し、[サーバー]にアラームの通知先を設定します。

◆感度と割合

感度	ウィンドウ内の物の動きに対する変化の感度を設定します。連続するフレームにおける前のフレームとの変化の感度になります。%を大きくするほど、小さな物の動きも感知します。
割合	ウィンドウ内の変化の比率を設定します。指定された比率を超えると、モーション検知アラームを発生します。インジケーターで、割合の状況を確認することができます。インジケーターが緑色のときは、アラームは発生しません。赤色になると、アラームが発生します。%を小さくするほどインジケーターが赤色になりやすく、アラームが発生する頻度が多くなります。

インジケーターの見かた
変化比率が[割合]の設定値(%)を超えると、インジケーターが赤色になります。変化比率が設定値以下の場合は、インジケーターは緑色になります。右図は40%に設定した場合の例です。

• [割合]を変更した場合は、設定値を保存した後に、インジケーターが有効になります。
• [感度]の%を大きく、[割合]の%を小さくするほど、小さな物の動きを検知しやすく、モーション検知アラームが発生しやすくなります。

プロファイルについて

プロファイル機能を使うことで、特定の時間帯に、さらに3つまでのモーション検出ウィンドウを設定できます。

■設定の手順

❶〈モーション検出〉画面の プロファイル をクリックします。
❷ P42の「■設定の手順」の手順❶～❸を参考に、モーション検出ウィンドウを設定します。
❸［本プロファイルを有効化］をオンにします。
❹ アラームが発生した場合に通知する時間帯を設定します。［送信元］に開始時間、［送信先］に終了時間を設定します。
❺ 保存 をクリックします。

14 カメラタンパー検知画面

何らかの原因で、本製品の撮影位置が変わる、映像が隠される、フォーカスが狂う、塗料などを吹き付けられるなどの妨害が入ったことを検知し、指定したサーバーなどへ通知することができます。通知先の設定は、P48「16. 適用画面」をお読みください。

画面の表示方法　［ホーム］➡［構成］➡［カメラタンパー検知］

設定を変更した場合
すべての設定が終わったあとで、必ず 保存 をクリックして設定を保存してください。

カメラ妨害検出を有効化	この項目を選択すると、カメラタンパー検知が有効になります。初期値＝オフ
トリガー期間	妨害を検知してからアラームを発生させるまでの時間を設定します。10秒～600秒（10分）の範囲で、秒単位で設定できます。初期値＝10

アラームの通知先を設定するには
P48「16. 適用画面」をお読みください。〈適用〉画面でイベントを作成します。［トリガー］で［カメラタンパー検知］を選択し、［サーバー］にアラームの通知先を設定します。

15 ホームページのレイアウト画面 アドバンス・モード選択時

本ユーティリティのレイアウトおよびデザインをカスタマイズすることができます。

画面の表示方法 アドバンス・モード選択時　［ホーム］➡［構成］➡［ホームページのレイアウト］

設定を変更した場合
すべての設定が終わったあとで、必ず 保存 をクリックして設定を保存してください。

■プレビュー
ロゴ画像およびテーマ オプションで選択した内容をプレビューすることができます。

■ロゴ画像
タイトルに表示されるロゴ画像（初期値：ロジテックロゴ）をカスタマイズできます。

●ロゴをカスタマイズする
最大160×50ピクセルのロゴを表示することができます。元画像がこのサイズより大きい場合はリサイズされます。アップロードできるロゴのファイル形式はJPEG/ GIF/ PNGです。以下の手順でアップロードしてください。

❶［カスタム］を選択します。
❷ 参照 をクリックし、ロゴ画像がある場所を指定します。
❸ アップロード をクリックします。
❹ ロゴがカスタマイズロゴに置き換わります。

●ロゴリンク
ロゴをクリックしたときのリンク先を指定できます。
初期値＝ロジテック・ホームページ

■カスタマイズされたボタン
ホーム画面に表示される［マニュアルトリガー］ボタンを表示するかどうかを選択します。
初期値＝オン（表示する）

■テーマ オプション

●テーマ
ホームページのテーマカラーを選択します。3種類の基本テーマのほか、［カスタム］を選択すると自由に色設定ができます。初期値＝ブルー

●カラー
テーマまたはカスタムをベースに、フォントやエリアの色を自由に設定できます。16進数の色コードをクリックすると、パレットが表示され、お好みの色を編集できます。

16 適用画面　アドバンス・モード選択時

イベントが発生したときの対処方法などを設定します。イベントとは、ユーザーが定義したトリガー元によって発生する動作（アクション）のことです。例えば、本製品のモーション検知アラームで、動きを検知してアラームが発生したときに、ここで設定した対処方法にしたがって、映像をFTPサーバーへ送信したり、E-mailを送信してイベントを通知することができます。

画面の表示方法　アドバンス・モード選択時　［ホーム］➡［構成］➡［適用］

●**イベントE　→設定方法はP49へ**
発生したイベントの通知方法やスケジュールなどをリストで表示します。
追加 をクリックすることで、新たなイベントを登録することができます。また、プルダウンメニューでイベント名を選択し、削除 をクリックすることで、そのイベント名の設定を削除できます。

●**サーバー　→設定方法はP52へ**
イベントの通知先をリストで表示します。追加 をクリックすることで、新たなサーバーを登録することができます。また、プルダウンメニューでサーバー名を選択し、削除 をクリックすることで、そのサーバー名の設定を削除できます。

●**メディア　→設定方法はP54へ**
イベントが発生した場合に、サーバーに送信するデ―タの種類（静止画、動画、システムログ）をリストで表示します 追加 をクリックすることで、新たなメディア名を登録することができます。また、プルダウンメニューでサーバー名を選択し、削除 をクリックすることで、そのメディア名の設定を削除できます。

●**カスタム済みのスクリプト**
ユーザーが用意したスクリプトを実行します。スクリプトはxmlファイルで作成します。追加 をクリックすることで、新たなスクリプトファイルを本製品にアップロードできます。また、プルダウンメニューでサーバー名を選択し、削除 をクリックすることで、そのスクリプトの設定を削除できます。

イベントの設定方法

［イベントE］の 追加 をクリックすることで、新たなイベントを作成することができます。

新しくイベントを設定した場合
すべての設定が終わったあとで、必ず 保存 をクリックして設定を保存してください。

●**イベント名**
イベントの名称を入力します。

●**このイベントを有効にする**
作成したイベントを有効にする場合に、この項目を選択します。

●**優先度**
このイベントの重要度を、高、標準、低の3つから選択します。重要度の高いイベントから優先的に実行されます。初期値＝標準

●**xx秒後に次のイベントが検出されます**
イベントを検出してから、次のイベントを検出するまでの待ち時間（秒）を設定します。
初期値＝10

■トリガー

作成中のイベントに使用するトリガーを選択します。ひとつのイベントにつき、ひとつのトリガーが設定できます。項目のラジオボタンをクリックすると、項目によっては、オプションの設定項目が表示されます。初期値＝システム起動

ビデオ動き検出（モーション検出）	［モーション検出］で設定したアラートにより発生するトリガーです。イベントを設定する前に、〈モーション検出〉画面（→P42）での設定が必要です。 標準：〈モーション検出〉画面で設定したウィンドウ名を選択できます。 プロファイル：〈動作感知プロファイル設定〉画面で設定したウィンドウ名を選択できます。
期間	設定した時間（分）ごとに定期的に発生するトリガーです。最大999分まで設定できます。初期値＝1
システム起動	本製品の電源が切れたときに発生するトリガーです。
録画通知	録画用のディスクがいっぱいになったときおよび、録画を開始し、既存の古いデ―タを上書きしているときに発生するトリガーです。
カメラタンバー検知	本製品が不正に操作（いたずら）された場合に発生するトリガーです。イベントを設定する前に、〈カメラタンパー〉画面（→P45）での設定が必要です。
マニュアルトリガー	ユーザーによって作成されたトリガーを使用します。イベントを設定する前に、トリガーの作成が必要です。

■イベントスケジュール

作成中のイベントを実行するスケジュールを曜日ごとに設定します。時間は、常時（24時間）または、各曜日共通で開始時間と終了時間を設定できます。

曜日	イベントを実行する曜日を設定します。オンにした曜日が有効になります。初期値＝全曜日オン
時間	イベントを実行する時間を設定します。初期値＝常に 常に：24時間常時イベントを通知します。 送信元と送信先：各曜日共通で開始時間（送信元）と終了時間（送信先）を設定できます。24時間制で時分を入力します。 （例）午前8時30分から午後10時まで設定する場合 送信元：8:30　送信先：22:00

■アクション

作成中のイベントが発生した場合に、どのように対処するかをアクションリストから選択します。チェックボックスをオンにすることで、そのアクションが有効になります。

［サーバー］には、〈サーバー〉画面で設定した内容がサーバー名で表示されます。［メディア］には、〈メディア〉画面で設定した内容がメディア名で表示されます。

サーバーを追加します。	新しくサーバーを登録することができます。〈適用〉画面の［サーバー］の 追加 ボタンをクリックしたときと同じ設定画面が表示されます。設定方法はP52「サーバーの設定方法」をお読みください。
メディアを追加します。	新しくメディアを登録することができます。〈適用〉画面の［メディア］の 追加 ボタンをクリックしたときと同じ設定画面が表示されます。設定方法はP54「メディアの設定方法」をお読みください。

サーバーの設定方法

〈サーバー〉画面では、発生したイベントの通知先を設定します。〈適用〉画面の[サーバー]にある 追加 をクリックすることで、新たなサーバーを登録することができます。

新しくサーバーを登録または変更した場合
すべての設定が終わったあとで、必ず 保存 をクリックして設定を保存してください。

◆電子メールを選択した画面例

■**設定手順**

❶ [サーバー名]にサーバーの名称を入力します。
❷ [サーバータイプ]を選択し、オプションの設定項目を設定します。

電子メール（初期値）	電子メールで送信する場合に選択します。 電子メールの送信者/受信者のメールアドレス、メールサーバーのドメイン名またはアドレス、電子メールアカウントのユーザー名とパスワード、メールサーバーのポート番号（初期値＝25）を設定します。 また、ご利用のSMTPサーバーに「SSL」が必要な場合は、[このサーバーはセキュアな接続（SSL）が必要]をオンにします（初期値＝オフ）。
FTP	FTPサーバーに送信する場合に選択します。 FTPサーバーのドメイン名またはアドレス、FTPサーバーのポート番号（初期値＝21）、サーバーにログインするためのユーザー名とパスワード、リモートフォルダ名を設定します（※）。 [パッシブモード]は、FTPサーバーがパッシブモードに対応している場合にオンにします。（初期値＝オン）。
HTTP	HTTPサーバーに送信する場合に選択します。 URLとログインするためのユーザー名、パスワードを設定します。
ネットワークストレース	NASなどネットワーク上のストレージに送信する場合に選択します。 保存先のフォルダ名を含むストレージの場所、ワークグループ名、ログインするためのユーザー名、パスワードを設定します。

※指定したフォルダ名が見つからない場合は、自動的に新しいフォルダが作成されます。

❸ 保存 をクリックします。
・ テスト をクリックすることで、正常に送信できるかテストすることができます。

メディアの設定方法

〈メディア〉画面では、サーバーにスナップショット（静止画）、ビデオクリップ（動画）、システムログのいずれを送るかを設定します。〈適用〉画面の［メディア］にある 追加 をクリックすることで、新たなメディアを登録することができます。

新しくメディアを登録または変更した場合
すべての設定が終わったあとで、必ず 保存 をクリックして設定を保存してください。

◆スナップショットを選択した画面例

❶［メディア名］にメディアの名称を設定します。
❷［メディアタイプ］を選択します。［スナップショット］と［ビデオクリップ］を選択した場合は、このあとのメモを参照して、オプションを設定します。
❸ 保存 をクリックします。

スナップショットとビデオクリップのオプション

スナップショット

項目	説明
ソース	ソースとしてストリーム1〜3のいずれを使用するかをリストから選択します。初期値＝ストリーム1
プリイベントイメージ※	本製品のバッファに保存しておく、トリガー発生前の画像数を設定します。0〜7の範囲で設定できます。初期値＝1
ポストイベントイメージ※	本製品のバッファに保存しておく、トリガー発生後の画像数を設定します。0〜7の範囲で設定できます。初期値＝1
ファイル名の接頭辞	ファイル名に付ける接頭辞を設定します。初期値：空白
ファイル名の最後に日付と時間を追加します	この項目をオンにすると、ファイル名に日時（年月日-時分秒）が付加されます。初期値：オフ。 （例）（ファイル名）_20110131-180853

※それぞれ「2」に設定すると、トリガー発生前画像2＋トリガー発生画像1＋トリガー発生後2の合計5枚の画像が送信されます。

ビデオクリップ

項目	説明
ソース	ソースとしてストリーム1〜3のいずれを使用するかをリストから選択します。初期値＝ストリーム1
プリイベント録画	本製品のバッファに保存しておく、トリガー発生前の動画の録画秒数を設定します。0〜9の範囲で設定できます。初期値＝0
最大遅延時間	イベント発生後の最長の録画秒数を設定します。1〜10の範囲で設定できます。初期値＝5
最大ファイルサイズ	録画ファイルの最大値（KB）を設定します。50〜5000の範囲で設定できます。初期値＝500
ファイル名の接頭辞	ファイル名に付ける接頭辞を設定します。初期値：空白

17 録画画面　アドバンス・モード選択時

本製品の映像を設定されたスケジュールに従って録画し、NASなどのネットワーク上の記憶装置に保存します。新しい録画エントリを作成するには、追加 をクリックします。また、プルダウンメニューでイベント名を選択し、削除 をクリックすることで、そのイベント名の設定を削除できます。

画面の表示方法　アドバンス・モード選択時　［ホーム］➡［構成］➡［録画］

※設定方法は次ページへ

録画エントリの設定方法

追加 をクリックすることで、新たな録画エントリを作成することができます。録画データの保存先となるNASなどの記憶装置を設定していない場合は、先に〈適用〉画面にある［サーバー］で保存先を設定しておいてください。

新しく録画エントリを設定した場合
すべての設定が終わったあとで、必ず 保存 をクリックして設定を保存してください。

●録画エントリ名
録画エントリの名称を入力します。

●この記録を有効にする
作成した録画エントリを有効にする場合に、この項目を選択します。
初期値＝オフ

●最適化録画を有効化
この項目をオンにすると、イベントの設定に合わせて〈ビデオとオーディオ〉画面で設定された最大フレームレートの設定値までフレームレートを上げます。
初期値＝オフ

●優先度
この録画エントリの重要度を、高、標準、低の3つから選択します。重要度の高い録画エントリから優先的に実行されます。初期値＝標準

●ソース
ソースとしてストリーム1〜3のいずれを使用するかをリストから選択します。
初期値＝ストリーム1

■トリガー
作成した録画エントリで使用するトリガーを選択します。現在は［スケジュール］にのみに対応しています。変更はできません。

■録画スケジュール
作成した録画エントリを実行するスケジュールを曜日ごとに設定します。時間は、常時（24時間）または、各曜日共通で開始時間と終了時間を設定できます。

曜日	録画エントリを実行する曜日を設定します。オンにした曜日が有効になります。初期値＝全曜日オン
時間	録画エントリを実行する時間を設定します。初期値＝常に 常に：24時間、常に録画します。 送信元と送信先：各曜日共通で開始時間（送信元）と終了時間（送信先）を設定できます。24時間制で時分を入力します。 （例）午前8時30分から午後10時まで設定する場合 送信元：8:30　送信先：22:00

●保存先
録画データの保存先をリストから選択します。

●容量
保存先の容量に対して、どこまでを録画データの領域として使用するかを設定します。

全体の空き領域（初期値）	保存先の記憶装置の空き領域すべてをデータの保存先として使用します。
予備スペース	保存先の記憶装置にある空き領域のうち、指定した容量だけ予備スペースとして残します。単位はMbytesです。

●ファイル名の接頭辞
ファイル名に付ける接頭辞を設定します。初期値：空白

●周期録画を有効化する
この項目をオンにすると、保存先の記憶装置の空き領域がなくなったとき、古い映像のうえに、新しい映像を上書きしていきます。初期値＝オフ

18 システムログ画面　アドバンス・モード選択時

システムログファイルをバックアップ用にリモートサーバーに送信したり、現在のシステムログを閲覧することができます。

画面の表示方法　アドバンス・モード選択時　［ホーム］➡［構成］➡［システムログ］

■リモートログ

システムログファイルをバックアップ用にリモートサーバーに送信するように設定できます。この機能を使う前に、ログ記録ツールをインストールして、ネットワークカメラからシステムログメッセージを受信できるようにしておくことをお勧めします。

リモートログを設定するには、以下の手順に従ってください。

❶ [IPアドレス]に、リモートサーバーのIPアドレスを入力します。
❷ [ポート]に、リモートサーバーのポート番号を入力します。
❸ [リモートログを有効にする]をオンにし、 保存 をクリックします。これで設定が有効になります。

■現在のログ

この画面では、システムログが日時順に表示されます。システムログは、ネットワークカメラのバッファエリアに保存され、バッファがいっぱいになると順次上書きされます。

19 パラメータを表示画面　アドバンス・モード選択時

パラメータリストには、システム全体のパラメータが表示されます。

画面の表示方法　アドバンス・モード選択時　［ホーム］➡［構成］➡［パラメータを表示］

20 メンテナンス画面

本製品を工場出荷時の設定に戻したり、ファームウェアを更新したりできます。

画面の表示方法　［ホーム］➡［構成］➡［メンテナンス］

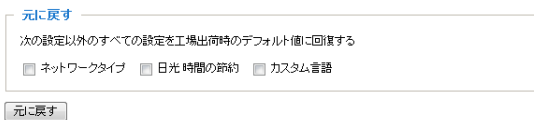
■システムリブート

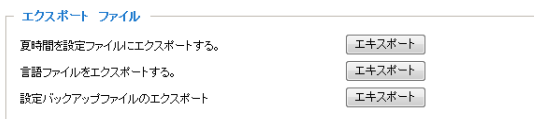
［再起動］をクリックすると、本製品を再起動します。再起動には約1分かかります。再起動が完了すると、ホーム画面に映像が表示されます。再起動中は、経過を表すインジケーター画面が表示されます。

起動後に接続できなくなった場合

Webブラウザのアドレス入力欄に、本製品のIPアドレスをキーボードから入力して、接続してください。またはいったんWebブラウザを終了し、〈セットアップ ワイザード〉を起動して再接続してください。

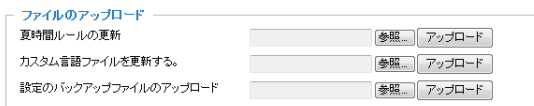
■元に戻す（工場出荷時の状態に戻す）

［元に戻す］をクリックすると、本製品の各種設定を工場出荷時の状態に戻します。［ネットワークタイプ（→P19）］、［日光時間の節約（夏時間の設定）］、［カスタム言語］については、チェックボックスをオンにすると、オンにした項目を除いて工場出荷時の状態に戻します。

■エクスポート ファイル

本製品から夏時間の設定、言語ファイル、設定バックアップファイルをエクスポートしてファイルとして保存することができます。エクスポートしたファイルは、［ファイルのアップロード］で本製品に読み込むことができます。

●エクスポートの手順

❶ エクスポートしたい項目の［エキスポート］をクリックします。
❷〈ファイルのダウンロード〉画面が表示されますので、［保存］をクリックします。
❸〈名前を付けて保存〉画面が表示されますので、保存先を指定し、［保存］をクリックします。これでファイルが保存されます。

■ファイルのアップロード

［エクスポート ファイル］で保存した設定ファイルを本製品へアップロード（インポート）することができます。

●アップロードの手順

❶ アップロードしたい項目の［参照］をクリックします。
❷〈アップロードするファイルの選択〉画面が表示されますので、設定ファイルを選択し、［開く］をクリックします。
❸［アップロード］をクリックします。これで設定ファイルがアップロードされ、アップロードした設定ファイルの内容に更新されます。

■ファームウェアをアップグレード

本製品のファームウェアを弊社ホームページで公開された最新版に更新することができます。

ファームウェアをアップグレード

ファームウェアファイルを選択 [参照...]

[アップデート]

●アップグレードの手順

❶ 参照 をクリックします。

❷〈アップロードするファイルの選択〉画面が表示されますので、ファームウェアのファイルを選択し、開く をクリックします。

❸ アップデート をクリックします。これでファームウェアが更新されます。更新が完了すると、本製品が自動的に再起動します。

100万画素 3G対応ネットワークカメラ "LAN-NC1M3G/FX"　ブラウザ版ユーティリティ ガイド
発行 ロジテック株式会社　2011年2月9日　第1版